

算数

算数科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
<p>・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などの理解</p>	<p>・見通しをもち道筋を立てて考察する力 ・数学的な表現を用いて自分の考えを簡潔・明瞭・明確に説明する力</p>

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<p>ア日常的に数を見聞きたり、言ったりしているものの、正しく数える力や計算する力はまだ不十分である。 イ数を1から順番に数えることはできるが、大きい数に出会った時に数え方や数のまとまりを意識するまでには至っていない。</p>	<p>アものの個数を比べる活動や、正しく数えたり数字で表したりする活動を取り入れる。習熟を目的とした練習を継続する。 イ具体物を数える活動を行い、より良い数え方を考えさせることで、数のまとまりに着目することの良さに気付かせる。</p>	<p>ア通年 イ通年</p>	
第2学年	<p>ア長さや、かさの単位について、単位量のいくつかの意味を十分に理解できていない児童がいる。 イ問いに対して正解はできるが、なぜその答えになるのか、自分の考えを整理し、相手に分かりやすく伝えることに課題がある。</p>	<p>ア水のかさをリットルますなどで測る活動や、リットルますやものさしの目盛りなどの図をノートにかきながら、理解していく学習を十分に行う。 イ教師と共に、考え方をノートに表現していく経験を積み重ねていく中で、既習を生かして、自分でも表現できるようにしていく。</p>	<p>ア通年 イ通年</p>	
第3学年	<p>ア量感や位取りを活用して、数を捉えることに課題がある。 ア九九の習熟に課題がある。 イ問題に対して自分の考えをもち、それを説明することに課題がある児童が多い。</p>	<p>ア十や百のまとまりを意識させるように、日常的に指導していく。 ア日常的に九九の復習に取り組む。 イ自分の考えをもつ学習を継続的に取り入れる。</p>	<p>ア通年 ア通年 イ通年</p>	
第4学年	<p>ア数量に関して、数が大きくなると苦手意識を感じる児童が多くいる、また概数の概念を苦手としている児童も多い。 ア図形に関しては、基礎的・基本的な概念を捉えることに課題がある。 イ既習事項を基に、自分の考えをもち、説明することに課題がある。</p>	<p>ア整数や小数の位を意識できるように日常的に指導していく。 ア単位の関係が意識できるように日常的な体験と結び付けて指導していく。 イ自分の考えを書いたり発表したりする学習を継続的に取り入れる。</p>	<p>ア通年 ア通年 イ通年</p>	
第5学年	<p>ア基本的なかけ算、わり算の習得ができていない。 ア量感が十分に育っていない。 イ既習事項を生かしながら問題に対して自分の考</p>	<p>ア学習の導入において該当学年までの復習を繰り返し行う。 ア具体物や ICT を活用し、視覚的に捉えられるようにする。 イ図や言葉、式を活用しながら、分かりやすく自分</p>	<p>ア通年 ア通年 イ通年</p>	

	えをもったり説明したりすることに課題がある。	の考えを表現する時間を意図的に設ける。		
第6学年	ア既習事項の図形の性質や、面積を求める公式を活用できていない。 イ図や言葉、式を用いて自分の考えを他者に伝える力が不十分である。	ア朝学習や授業の初めなど、繰り返し基礎的な問題に取り組む時間を設ける。 イ日頃の学習から、答えだけ求めるのではなく、どのように答えを導いたのかを、図や言葉、式に表す時間を設ける。	ア通年 イ通年	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<p>1年 タブレット端末を使用し、図式化して表現する手段を活用することで、自分の考えを表出しやすくする。【重点:個別】</p> <p>2年 基礎・基本の知識が定着していくように、ベーシックドリルやミライシードに取り組んでいく。【重点:個別】</p> <p>3年 タブレット端末を利用し、自分の考えを明確にしたり、友だちの考えと比べたりして、いろいろな考えを共有できるようにする。【重点:協働】</p> <p>4年 タブレット端末を利用し、児童の考えをプロジェクターに投影し共有する。また、友達の考えをヒントにできるように設定する。【重点:協働】</p> <p>5年 ICT を活用し、練習問題の反復学習に取り組ませる。【重点:個別】</p> <p>6年 タブレット端末を活用して、プレゼンテーションや説明を行う。【重点:協働】</p>	<p>1年 学習した知識を日常生活で使用する場面を意図的に設定し、学びを実感することができるようにする。</p> <p>2年 既習を生かして自ら考えさせる授業を積み重ねていくことにより、見通しをもち自信をもって学習していけるようにする。</p> <p>3年 本時の学習の「ねらい」を明確にし、学習感想で振り返りを行い、学習内容の定着を図る。</p> <p>4年 授業の始めに前時の学習に行った内容を確認してから授業開始する。授業の終わりにはその日の学習の振り返りを行い、全体で確認する。</p> <p>5年 授業の最後に自分の言葉で授業のまとめを書き、次時の学習につなげる。</p> <p>6年 学習課題と日常生活を関連付けさせてより身近な課題として考えさせる。</p>